



建交労



2023年2月1日
かながわけんなんしふ
建交労神奈川県南支部

2023年春闘 No.3

2022年度推進ニュース⑫通算 282号

発行責任者 小島 茂

参拝客で賑わう川崎大師山門前で宣伝！ 神奈川県南支部執行部4人でマスク配布

神奈川県南支部の事務所はJR川崎駅から徒歩5分ほど京浜急行川崎駅からは徒歩7~8分ほどのところにあって、交通の便には恵まれています。また、京浜急行川崎駅からは支線の大師線が延びていて初詣客の多い寺院として全国にも知られている創建900年近い歴史を持つ由緒ある寺院川崎大師（正式名称は金剛山 金乗院 平間寺）のある川崎大師駅までは川崎駅から3駅目の近さです。ちなみに川崎大師の初詣客は毎年300万人以上で千葉県成田山新勝寺とは常に2・3位を競っています（1位は明治神宮）。別院（「東京日本橋の薬研堀不動院」と「京都山科の川崎大師京都別院・岩屋山大宅院笠原寺」）もあるそうです。

神奈川県南支部は、毎年1月の執行委員会前段でおこなう新春宣伝行動は、この川崎大師周辺でビラの全戸配布を行ってききましたが、今年は初めて川崎大師の参拝客で賑わう山門前での宣伝行動を28日（土）に実施しました。

宣伝物は建交労全国トラック部会が昨年秋に作成した宣伝用マスク（下の写真）を使いました。行動参加者は写真の上から小島委員長、金崎書記長、佐藤執行委員と赤羽の4名でしたが参道から境内に向かう参拝客と参拝を終えて参道を引き返す人々の列は途切れることなく準備した300枚のマスクは忽ちなくなってしまいました。



早めの休憩で安全運転を！

賃金や労働条件、働き方に不満や悩みはありませんか？



困った時は、建交労へ
ご相談ください！



建交労 全日本建設交通一般労働組合
全国トラック部会

建交労中央運輸労使協議会中央行動実施 全ト協・国交・経産・ガス協会・石連に要請！

建交労中央運輸労使協議会（建交労全国トラック部会と建交労トラック職場の経営者で構成）は1月30日に労使共同による中央行動を実施しました。毎年行っていたこの行動は、コロナ禍によって2年間中止を余儀なくされ3年ぶりの取り組みです。

行動参加者は関東・中部・関西・九州地方の経営者8名と組合側33名の労使41名で神奈川県南支部からは金崎書記長と赤羽の2名が参加しました。



全ト協総合会館会議室に集合した参加者



行動説明を行う鈴木事務局長

朝10:00に東京都新宿区四ツ谷3丁目にある社団法人全日本トラック協会（全ト協）の総合会館会議室に集合した参加者は全ト協要請に先立ち、上村誠全国トラック部会副部長（神田支部委員長）の進行で1日の行動の打ち合わせを行いました。まず、労使の代表（経営）成瀬大輔（株）教宣文化社代表取締役、（組合）建交労角田季代子中央執行委員長から挨拶がおこわれ、

つづいて鈴木正明全国トラック部会事務局長による行動説明を受けて全体の意思統一をはかりました。10:25からの全ト協要請では、労使の代表が「トラック運輸産業の将来展望について」と題した要請書を全ト協の柘野龍二理事長に手交し、標準的な運賃の実効確保やTS等休憩施設の改善、高速道路料金の割引制度拡充、若年運転者不足の対策など、トラック業界にとって待ったなしとなっている労使共通の課題を中心に1時間余りにわたって忌憚のない意見交換を行いました。



全ト協理事長（左）に要請書手交



国交省（右）に署名を渡す労使

なお、同じ時間帯で2つの別グループが、日本産業・医療ガス協会と、石油連盟に対する要請行動を行っています。

昼食休憩後には別グループの仲間を含め参加者全体が衆議院第2議員会館第1会議室に集合し国土交通省に1時間、経済産業省には50分間の要請行動を展開しました。要請の内容は、安全・安心なトラック輸送と業界秩序の確立、事業の経営環境改善とトラック運転手の労働環境・労働条件改善に向けた対策を関係行政として抜本的に強化することを求めるものです。国土交通省にはこの間に労使が共同で集約した請願署名（団体841&個人6586筆）を手渡しました（上の写真）。

神奈川県南支部の金崎書記長は、国交省要請のなかでトラック現場の苛酷な実態を詳細に告発して改善を求めました。



衆議院第2議員会館会議室での要請行動の様子